

登録コード:MH180200 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修																																																																								
科目名	看護方法論 (臨床看護技術)【22M以降】 Methodology of Fundamental Nursing II (Clinical Nursing Techniques)																																																																										
担当教員	浅野 美礼 他 小林 千世・山口 大輔・上原 文恵																																																																										
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/2年 前期 月曜・2時限 水曜・1時限 水曜・2時限																																																																										
単位数、講義室	2単位	保健学科211講義室 看護学実習室 保健学科311講義室	遠隔授業科目																																																																								
信大コンピテンシー	該当																																																																										
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	授業の達成目標																																																																									
	MH25カリ・保健・看護、MH23カリ・保健・看護																																																																										
	基礎的・専門的な知識と技能 看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	看護専門職が実践する診療援助技術の知識・技能を理解し、実践することができる。																																																																									
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	看護専門職が患者の健康を支援するために実践している診療援助技術の実践を理解する。																																																																									
授業で学べる「テーマ」	多文化協働、健康長寿																																																																										
全学横断特別教育プログラム																																																																											
授業概要	診断・治療に関わる基本的な看護技術について、ケアが必要な対象の身体的な状況、診断・治療に関わる看護技術の原理、科学的根拠を踏まえた安全・安楽に実施する方法や効果を評価する方法を学ぶ。療養生活に関わる学習支援に関する基本的な知識を学ぶ。対象の安全を守る方法を理解するために、医療事故の要因を理解し、事故を防止する方法を学ぶ。体験学習を通してケアを受ける患者の心理的な状況を模擬体験し、患者との関わりを推測し、必要な看護を理解する。 本授業は、1年次に学んだ「看護学概論」「コミュニケーション方法論」「基礎看護学実習」の知識を前提とし、2年次前期の「看護方法論」と相補的に学んでいくことになります。そして、2年次（集中）に学ぶ「基礎看護学実習」における重要な基礎知識となります。 本授業は、担当教員の医療機関における看護師としての実務経験を活かして講義を行います。 本授業は、男女共同参画に関する内容を含んでいます。																																																																										
授業計画	月曜日（2時限）と水曜日（1・2時限）の枠を使って開講します。月曜日（2時限）は開講日もありますが、演習の準備・片付けを行います。開講日にご注意ください。 <table><tr><td>第1回</td><td>(4月13日) 月2</td><td>講義</td><td>オリエンテーション、感染予防と看護</td></tr><tr><td>第2回・第3回</td><td>(4月15日) 水1・2</td><td>講義</td><td>感染予防と看護</td></tr><tr><td>第4回・第5回</td><td>(4月22日) 水1・2</td><td>講義</td><td>導尿・与薬</td></tr><tr><td>第6回・第7回</td><td>(4月30日) 木1・2</td><td>【演習】</td><td>無菌操作・ガウンテクニック・滅菌手袋</td></tr><tr><td>第8回・第9回</td><td>(5月13日) 水1・2</td><td>講義</td><td>与薬の看護・浣腸</td></tr><tr><td>第10回・第11回</td><td>(5月20日) 水1・2</td><td>【演習】</td><td>導尿</td></tr><tr><td>第12回・第13回</td><td>(5月27日) 水1・2</td><td>【演習】</td><td>浣腸</td></tr><tr><td>第14回・第15回</td><td>(6月3日) 水1・2</td><td>講義</td><td>酸素療法、吸入、吸引</td></tr><tr><td>第16回・第17回</td><td>(6月10日) 水1・2</td><td>【演習】</td><td>吸引</td></tr><tr><td>第18回・第19回</td><td>(6月17日) 水1・2</td><td>講義</td><td>皮下注射・筋肉注射・静脈内注射</td></tr><tr><td>第20回・第21回</td><td>(6月24日) 水1・2</td><td>【演習】</td><td>注射</td></tr><tr><td>第22回</td><td>(7月1日) 水1</td><td>講義</td><td>輸液の管理</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>「基礎看護学実習 オリエンテーション」</td></tr><tr><td>第23回・第24回</td><td>(7月8日) 水1・2</td><td>【演習】</td><td>輸液療法</td></tr><tr><td>第25回・第26回</td><td>(7月15日) 水1・2</td><td>講義</td><td>学習支援・安全管理</td></tr><tr><td>第27回・第28回</td><td>(7月22日) 水1・2</td><td>講義</td><td>検査の看護</td></tr><tr><td>第29回・第30回</td><td>(7月29日) 水1・2</td><td>技術試験</td><td></td></tr><tr><td>第31回</td><td>(8月5日) 水1</td><td>筆記試験</td><td></td></tr></table> 授業アンケート			第1回	(4月13日) 月2	講義	オリエンテーション、感染予防と看護	第2回・第3回	(4月15日) 水1・2	講義	感染予防と看護	第4回・第5回	(4月22日) 水1・2	講義	導尿・与薬	第6回・第7回	(4月30日) 木1・2	【演習】	無菌操作・ガウンテクニック・滅菌手袋	第8回・第9回	(5月13日) 水1・2	講義	与薬の看護・浣腸	第10回・第11回	(5月20日) 水1・2	【演習】	導尿	第12回・第13回	(5月27日) 水1・2	【演習】	浣腸	第14回・第15回	(6月3日) 水1・2	講義	酸素療法、吸入、吸引	第16回・第17回	(6月10日) 水1・2	【演習】	吸引	第18回・第19回	(6月17日) 水1・2	講義	皮下注射・筋肉注射・静脈内注射	第20回・第21回	(6月24日) 水1・2	【演習】	注射	第22回	(7月1日) 水1	講義	輸液の管理				「基礎看護学実習 オリエンテーション」	第23回・第24回	(7月8日) 水1・2	【演習】	輸液療法	第25回・第26回	(7月15日) 水1・2	講義	学習支援・安全管理	第27回・第28回	(7月22日) 水1・2	講義	検査の看護	第29回・第30回	(7月29日) 水1・2	技術試験		第31回	(8月5日) 水1	筆記試験	
第1回	(4月13日) 月2	講義	オリエンテーション、感染予防と看護																																																																								
第2回・第3回	(4月15日) 水1・2	講義	感染予防と看護																																																																								
第4回・第5回	(4月22日) 水1・2	講義	導尿・与薬																																																																								
第6回・第7回	(4月30日) 木1・2	【演習】	無菌操作・ガウンテクニック・滅菌手袋																																																																								
第8回・第9回	(5月13日) 水1・2	講義	与薬の看護・浣腸																																																																								
第10回・第11回	(5月20日) 水1・2	【演習】	導尿																																																																								
第12回・第13回	(5月27日) 水1・2	【演習】	浣腸																																																																								
第14回・第15回	(6月3日) 水1・2	講義	酸素療法、吸入、吸引																																																																								
第16回・第17回	(6月10日) 水1・2	【演習】	吸引																																																																								
第18回・第19回	(6月17日) 水1・2	講義	皮下注射・筋肉注射・静脈内注射																																																																								
第20回・第21回	(6月24日) 水1・2	【演習】	注射																																																																								
第22回	(7月1日) 水1	講義	輸液の管理																																																																								
			「基礎看護学実習 オリエンテーション」																																																																								
第23回・第24回	(7月8日) 水1・2	【演習】	輸液療法																																																																								
第25回・第26回	(7月15日) 水1・2	講義	学習支援・安全管理																																																																								
第27回・第28回	(7月22日) 水1・2	講義	検査の看護																																																																								
第29回・第30回	(7月29日) 水1・2	技術試験																																																																									
第31回	(8月5日) 水1	筆記試験																																																																									
授業の進め方	・授業の進め方については、第1回の授業で説明します。 ・授業は月曜日（2時限）及び水曜日（1・2時限）の中で、31回の講義、演習、技術試験、筆記試験を行います。 ・演習は看護学実習室で行います。 ・演習を欠席した場合は、補講を受けて到達度の確認を受けた後、演習後課題レポートを提出します。欠席の理由によっては補講の対象とはなりません。 ・補講を受講せずに演習後課題レポートを提出することはできません。 ・成績評価の認定には、すべての演習後課題レポートの提出が終了している必要があります。 ・演習の準備と片づけをグループで分担します。原則として、開講日ではない月曜日（2時限）に行います。担当グループは第1回授業で説明します。 ・演習は事前に告知することなく時間延長する可能性があり、原則として演習終了までの																																																																										

授業の進め方	出席が必要です。 ・ 演習で使用するディスポ手袋(無滅菌用)は、必要時学生が購入します。 ・ 7月1日(水)2時限に基礎看護学実習 オリエンテーションを行います。
テキスト, 教材, 参考書	テキスト: ・ 基礎看護技術 (医学書院) (1年次から使用のものを継続して使用します) 参考書: ・ 看護技術スタンダードマニュアル(メジカルフレンド社) ・ 看護技術がみえる(メディックメディア)
成績評価の方法	・ 筆記試験、技術試験、演習後課題レポートの成績により判断します。 ・ 評価の配分は、筆記試験60%、技術試験20%、演習後課題レポート20%の評価を合計して、100点満点で得点を算出します。 ・ 演習の受講、演習後課題レポート提出の無いものは、成績評価の対象とはなりません。
成績評価の基準	筆記試験、技術試験、演習後レポートの総合で成績評価を行います。単位認定にあたり、筆記試験と総合得点は、それぞれ60%以上である必要があります。成績評価の基準は、下記の通りとします。 秀: すべての課題を提出しており筆記試験、技術試験、演習後課題レポートの到達度が90%以上の成績である。 優: すべての課題を提出しており筆記試験、技術試験、演習後課題レポートの到達度が80%以上の成績である。 良: すべての課題を提出しており筆記試験、技術試験、演習後課題レポートの到達度が70%以上の成績である。 可: すべての課題を提出しており筆記試験、技術試験、演習後課題レポートの到達度が60%以上の成績である。 不可: 未提出の課題がある。もしくは筆記試験、技術試験、演習後課題レポートの総合得点が60%未満の成績である。
事前事後学習の内容	【事前学習】 ・ 講義、演習に関して、事前課題を提示します。 ・ 看護技術に関連する解剖学・生理学については、教科書の該当範囲を予習して授業に臨んで下さい。 ・ 演習までに講義内容や手順を理解し、手順を見なくても実施できるように準備してください。 【事後学習】 ・ すべての演習項目において演習後課題レポートを演習後1週間以内に提出してください。 ・ 目的の到達度やその理由や課題、演習での体験を通した学びをまとめます。 本授業の単位修得には、90時間の学習が必要です。 授業時間60時間(2時間×30回)+30時間(事前・事後学習1時間×30回)=90時間 上記の時間を考慮して事前・事後学習に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	・ 安全に、正確に看護技術を実施できる力を身につけるため、演習前・演習中・演習後に自主的に学習できるように学習支援を行います。怪我をしないように十分注意してください。 ・ 医療事故を防止するための、倫理的な態度を身に着けることを目指します。 ・ 質問・相談には各担当教員が随時対応します。 科目責任者の連絡先: 浅野美礼教授 millet@shinshu-u.ac.jp 担当教員のオフィスアワーはHPで確認してください。 小林千世准教授、山口大輔助教、上原文恵助教も対応します。